

ソ連大使との懇談概要

日時 1972年6月29日(木) 午前10時～12時
場所 東京プリンスホテル(桂)

出席者

ソ連側

駐日大使 O.A. トロヤノフスキー氏
経済科学担当参事官 G.N. プスタンチュフ氏
(通訳 コマロフスカヤ氏)

日本側

松根副会長
森事務局長, 坂本

はじめに、松根副会長が原産の性格、位置づけなどの紹介に加えて、日本のエネルギー事情、原子力開発の状況などの概略を説明。とくに濃縮ウラン問題については、自主技術開発にあわせて、アメリカ、フランスなどとの協同事業についても検討中であること、供給源の多様化に関心をもっていることなども示された。

ついで、核燃料問題を中心として意見交換が行われたがその概要は以下の通りである。

大使：濃縮ウランについて日ソ間の協力が可能となった場合、日本側は濃縮サービスを望むのか、ソ連の原料を用いた濃縮ウランの買取を望むのか。

松根：調産ウランの価格による。日本としても、目下、海外探鉱などより経済的な資源の入手に努めているが、どちらとの比較において選択されることになる。